様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　6　月　10　日現在

機関番号：34429
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：　2009　～　2011
課題番号：21401042
研究課題名（和文）　アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開
—トルコ及びヨーロッパ—
研究課題名（英文）Generation and development of Alevi groups and Alevi ethnicities: The case of Turkish, Kurd, Zaza, and Tahtacı goupes, and Turkish immigrants in Europe
研究代表者：
佐島　隆（SASHIMA　TAKASHI）
大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・教授
研究者番号：40192596

研究成果の概要（和文）：アレヴィー集団は、単一起源ではなく、複数の集団を内包するため、各々の文化的宗教的社会的歴史的特徴を実証的に明らかにした。特に、トルコを中心にすると、トルコ（アナトリア）・アレヴィーの諸組織、アレヴィー・イスラームの組織、またアレヴィーとされるタフタジュ、アラブ系のアラブ・アレヴィー（ヌサイリー派）、ザザ人やクルド人のアレヴィーなどの実態調査、歴史的な実証的研究により、各々の文化的宗教的社会的歴史的特徴の一端を明らかにした。ヨーロッパでは各国の政治的文化的社会的特性と対応させ、トルコの影響も受けている、各々の生存戦略を模索する一端を明らかにした。これによりアレヴィー・エスニシティを解明する一端を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：‘Alevi’ includes groups of diverse origins. We have clarified cultural, religious, social and historical characters of each Alevi group in Turkey: Türk Alevi (Anatoria Alevi), ‘Alevi Islam’, Taftacı, Arab Alevi (Nusayrī), Zaza and Kurd Alevi. In Europe, we have revealed that Alevi peoples formed groups in response to their particular political, cultural, social and religious environments, adopting elements of Turkish political and religious culture. These finding provide to elucidation of Alevi ethnicities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2010 年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2011 年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総　計	13,600,000	4,080,000	17,680,000

研究分野：　宗教人類学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：アレヴィーAlevi、ベクタシ Bektashi、トルコ系移民の生存戦略、異民族間関係、ジェンダー研究、エスニシティ研究、世俗的宗教教育・多文化社会研究、

１．研究開始当初の背景

アレヴィーという集団がどのような集団であるのか、不明瞭であることから、これまで研究グループを組織して調査、研究してきた。同時に、アレヴィー・ベクタシ研究会を開催し、研究、発表をしてきた。その結果の一つとして『アレヴィー・ベクタシ集落における伝統的文化の変化と持続に関する調査研究—トルコおよびブルガリア—』大阪国際

大学、2003 年、『「アレヴィー・ベクタシ」集団のエスニシティと社会的・文化的秩序の変化と持続―トルコ・ヨーロッパにおけるトルコ系集団を中心として―』大阪国際大学、2007 年などに結実した。

さらにアレヴィーという概念に複数の集団が内包されることが明らかになり、その各々の関係をも明らかにしていく必要が出てきた。そこで、1990 年代に出てきたと考えられる「トルコ・アレヴィー」、また 2000 年前後頃に明示され始めた「アレヴィー・イスラーム」の思想等について明らかにする必要が出てきた。またクルド人のアレヴィー、ザザ人のアレヴィー、アラブ人のアレヴィー（ヌサイリー派）などについても、その文化的社会的宗教的諸特徴について、明らかにする必要が出てきた。また、ヨーロッパにもアレヴィーという人々は多く存在し、各々の国家や政府との関係で、自分たちの生存戦略を考慮しなければならない状況になってきており、ヨーロッパの主だった諸集団、諸組織について調査をする必要があった。

そこで、本研究集団を組織し、実態調査と、歴史資料や諸研究資料に基づいて、実証的な研究を実施したのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、アレヴィー集団（アレヴィー／ベクタシ集団を含む）の社会的文化的特徴およびエスニシティについて明らかにするものである。その際に、実際に見られるアレヴィー諸集団とアレヴィー概念及びその名称が指し示す者との違いを明瞭にしながら、明らかにするものである。ひいてはアレヴィー・エスニシティを明らかにするものである。

（1）特にトルコでは、有力なワクフ、協会、研究施設、研究者、政府（内務省、宗務庁）などの調査、資料収集をして、その動向や文化的社会的宗教的特徴を明らかにする。その際に、ハジュベクタシ町、アレヴィーとされるタフタジュ集団などの調査も行う。

（2）ヨーロッパにおいては、トルコ系移民と母国との関係、あるいは多文化社会に関することも配慮して調査する。トルコ系移民の中で、ヨーロッパ居住地各々の環境や国家や政治などの中でアレヴィー／アレヴィーリキの実態を明らかにする。様々なアレヴィー共同体からの出身者にしても、ヨーロッパの地で、生活していくことになり、適応していくことになる。それがどのようになされているのか、そして、その時にアレヴィー／アレヴィーリキがどのように関連するのかを明らかにすることも目的の一つである。

（3）アレヴィーの中には,そのアイデンティティの変化についても見られ始めている。その実態をも調査し、データ収集し、分析し、検討する必要がある。

（4）そして、アレヴィーの人々の中では、アレヴィー自身が男女平等であることを語る場合があるので、その実態調査をする。

（5）以上のことについて念頭におきながら実態調査を行い、かつ歴史資料にも目配りし、調査研究、データ収集、そして分析をし「アレヴィーとは何か」を明らかにすることが、本科研の目的である。

３．研究の方法

研究対象の場所ごとに分けて見てみる。

（1）トルコ共和国。

①アンカラ。政治（内務省、宗務庁等）と「アレヴィー」との関係。主要なワクフ・協会の動向の調査、関連する研究機関、関連する研究者との意見交換および関連資料の収集。

②イスタンブル。移住者、移民等とアレヴィーとの関係に関する実態調査。主要なワクフ、協会及び周辺居住地域における実態調査、関連研究者との意見交換及び関連資料収集。

③ハジュベクタシ町。ハジ・ベクタシ・ヴェリ記念祭の定点観察の継続。アレヴィーにとって重要な聖者ハジ・ベクタシ・ヴェリの思想とアレヴィー／ベクタシに関する実態調査。研究者との意見交換及び関連資料収集。
④トルコ東南部及びその周辺地域。
アラブ・アレヴィーに関する実態調査及び関連する資料収集。クルド・アレヴィーに関する実態調査及び関連する資料収集。ザザ・アレヴィーに関する実態調査と関連する資料収集。これらは歴史学、文化人類学、宗教学、民俗学などの視点から調査、研究する。

（2） ヨーロッパ。

①ドイツ、イギリス、オランダ、ベルギー、デンマーク、スウェーデン、フランス等。各国、各都市の実情に合わせたトルコ系移民アレヴィーが生活を確立、持続させる方策を考えながら、暮らしている実態を調査し、関連資料の収集を行った。「アレヴィー」が一つのトランス・カルチャーなのか、あるいは新たなアレヴィー像の創造なのか、それとも生きるためにアレヴィーを「利用」するのか等、検討すべきことが浮き彫りになってきた。

(3)「アレヴィー」概念の生成と展開。

各時期において「アレヴィー」という言葉が、どのような意味内容を包含しているのか。そしてその展開、変化、変容について実証的に明らかにすること。これは緒に就いたところであり、諸資料や諸文献を収集し、その分析をし始めたところであった。

４．研究成果

今回の本研究グループにおいて調査を実施してきた研究領域・地域の研究報告は、研究報告冊子『アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―』大阪国際大学、2012 年（印刷中）であり、この他にも研究分担者、研究協力者、連携研究者が各々研究論文を公表し研究発表をし、またする予定である。これはいずれも、国内はもとより、トルコ欧米など関連研究者のいる所においても、知られていない新知見が多く見られるものである。トルコや欧米で、最前線と言われるテーマであることからも、本研究の成果は日本語であっても（トルコ語の論文もあるが）この領域で国内外に大きなインパクトを持つ。

例えば、アレヴィー概念が一様ではないこと。アレヴィー概念に内包される諸集団について、各々実態調査と歴史資料に基づいて検討し、そのエスニシティの一端を、各々明らかにしたこと。またその社会構造や宗教的なあり方・構造・機能を明らかにしたことなど。そしてクルド・アレヴィーやザザ・アレヴィーなどについて、その特徴の調査、資料収集をし、分析を始めたところである。

トルコ・アレヴィーの生成と変化について資料収集し、その一端を明らかにした。また、教義的な側面でも重要な聖者ハジ・ベクタシ・ヴェリの思想を明らかにするために、関連文献の翻訳をした。

欧米については、ヨーロッパにおけるアレヴィーなどのトルコ系移民の場合には、その居住する都市の行政や政府行政の関係との適応により、また自分たちの集団の歴史的社会的特性により独特の適合のあり方を持ちながらも、場合によってはマジョリティなどの異民族の人々と軋轢を持ちつつ、各々居住している状況が明らかになってきているので、関連文献を翻訳し、また調査報告をし、論考を準備しているところである。

移住者の場合、例えば、トルコ東南部からイスタンブルに移住した人々が、アレヴィーの名の下に、あるいはアレヴィーの想像・創造の「理念」「宗教的意味」によって「アレヴィー共同体」を形成し、組織化が進められていくが、その時に周辺の人々と軋轢を持ち

ながらも、その生活圏を作りあげていく様子を明らかにした。

個々のテーマでは、本研究の研究分担者、研究協力者、連携研究者等により、政治と宗教の関係、移民研究、トルコ移民と母国との関係、異民族間関係（エスニック・コンフリクト）、多文化社会研究、クルディスタンやその周辺地域の歴史的研究などについて、論考、研究論文・報告を発表し始めている。

他にも新たな知見、新たな問題点、課題が見つかってきている。例えば、アレヴィーに類似する集団がイラン等周辺諸国にも見られるので、文献調査は行っているが、その実態調査も行い、比較検討したいと考えている。

それもこれも本科研費による調査研究、資料収集のたまものである。感謝したい。そしてさらに、緒に就いた問題や残された課題については早急に再度研究組織を組み、明らかにしたいと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（12 件）

<u>佐島隆</u>「アレヴィー/アレヴィーリキの認識と政治—宗教と文化の間—」『宗教研究』（日本宗教学会、）査読有り、85 巻 4 輯 371 号、2012 年、p.275-276。

<u>佐島隆</u>「イスラーム行政と「政教分離」国家の中のアレヴィー教育の位置」『宗教研究 84 巻 4 輯 367 号』（日本宗教学会）、査読有り、2011 年、pp.275-276。

<u>佐島隆</u>「カズ山とイダ山の「聖所」——ギリシア神話とサルクズ伝説」『地中海学会月報 333』地中海学会、査読有り、2010 年、p.7。

<u>佐島隆</u>「雑誌 CEM に見る現代「アレヴィー」思想の変化」『宗教研究』第 83 巻第 4 輯（363 号）（日本宗教学会）、査読有り、2010 年、pp.413-414。

<u>Noriko NAKAYAMA</u>,“Ev Hanımı Olmak İsteyen Yüksek Öğrenimli Japon Kadınları: Türk Toplumu ile Karşılaştırmalar” (High-educated Japanese Women Who Want to be a Housewife: Comparison with the Turkish Society), *Women's Education in Turkey and Japan for Social Development*, Project on the Education of Turkish and Japanese Women for Social Development,査読有り、2011 年、p.219-228.

<u>中山紀子</u>「ドイツに再現されるトルコの村——ドイツ、ドルトムント市におけるトルコ人移民調査に関するフィールド日記」」『貿易風——中部大学国際関係学部論集——』6 号、査読無し、2011、p.131-141.

<u>中山紀子</u>「「男はみんなオオカミよ」がもたらす秩序 —ムスリムたちの男女関係・トルコ」『フィールドプラス第 3 号』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）、査読無し、2010 年、p.7。

<u>齋藤久美子</u>「租税台帳に見るアナトリア南東部の人口構成」『東洋文化』（東京大学）91、査読有り、2011 年、pp.147-163。

<u>齋藤久美子</u>「16－17 世紀アナトリア南東部のクルド系諸県におけるティマール制」『アジア・アフリカ言語文化研究 78（2009）』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）、審査有り、2009 年、pp.79-112。

<u>石川真作</u>「ドイツの都市におけるイスラーム団体をめぐる状況変化——VIKZ の活動を通して見る黎明期と現在——」『人間学研究』11、査読無し、2011 年、p.55-69.

<u>石川真作</u>「ドイツにおけるアレヴィーの組織化—トランスナショナルな公共空間に構築される「想像の信仰共同体」—」『移民研究年報』16、査読有り、2010 年、pp.45-62。

<u>上岡弘二</u>「フィールドで人を撮る」『FIELD +』No. 2 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、査読無し、2009 年、pp. 30-31。

〔学会発表〕（計 12 件）
佐島隆「現代におけるアレヴィー/アレヴィーリキの認識とその変容―政治・宗教・文化」第66回羽田記念館講演会・京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター,2011年。
佐島隆「アレヴィー／アレヴィーリキの認識と政治―宗教と文化の間―」日本宗教学会第70回学術大会（於：関西学院大学）、2011年。
佐島隆「ギリシア神話のイダ山からトルコ系エスニック集団のカズ山へ――伝承母集団の変化と伝承の変化――」近畿民俗学会（於：大阪歴史博物館）、2010 年。
佐島隆「イスラーム行政と「政教分離」国家の中のアレヴィー教育の位置」日本宗教学会第 69 回学術大会（於：東洋大学）、2010 年。
佐島隆「雑誌 CEM に見る現代「アレヴィー」思想の変化」日本宗教学会第 68 回学術大会（於：京都大学）、2009 年。
中山紀子「Ev Hanımı Olmak İsteyen Yüksek Öğrenimli Japon Kadınları: Türk Toplumu ile Karşılaştırmalar（トルコ語）」, International Symposium on Women's Education in Turkey and Japan for Social Development（於：Çanakkale Onsekiz University, Çanakkale, Turkey）、2010年。
中山紀子「家屋から見るトルコの家族関係」リトルワールドカレッジ・マスターコース 2010 講義　第３回（於：野外民族博物館リトルワールド）、2010年。
齋藤久美子「イスラームと宗教マイノリティー：トルコのシーア系少数派の過去と現在に見る」慶応義塾大学言語文化研究所イスラーム・セミナー、2011 年。
齋藤久美子「16-17 世紀アナトリア南東部におけるティマール制」（トルコ・ビルケント大学よりの招待講演）、2011 年。
齋藤久美子「オスマン朝下アナトリア南東部におけるティマール制」東洋史研究会大会（於：京都大学文学部）、2010 年。
石川真作「オーストリアにおけるイスラームを巡る状況に関して—歴史的環境と現状」日本中東学会第 25 回年次大会、2009 年。
石川真作「ドイツにおけるトルコ・アレヴィーの展開」日本オリエント学会第 51 回大会、2009 年。

〔図書〕（計 17 件）
佐島隆編著、中山紀子、南直人、齋藤久美子、宮澤栄司、石川真作、上原三紀子、シュクル・アスラン他著、『アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―』大阪国際大学、2012 年 6 月。（印刷中）
佐島隆・石川真作共編・南直人監訳、ゾッケフェルト著『アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―研究資料集・第5集』大阪国際大学（アレヴィー・ベクタシ研究会）、2012年.（印刷中）
佐島隆編集・南直人監訳、ヴェルナー・シッファウワー著『アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―研究資料集・第4集』大阪国際大学（アレヴィー・ベクタシ研究会）、2011年、pp. 1-170.
佐島隆「「トルコで観光」を見る――ゲスト、ホスト、そしてモデルカルチャー――」（大阪国際大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学部編集委員会）『異文化コミュニケーション研究――賞でる・習う・愉しむ――』大阪国際大学国際コミュニケーション学部、2011 年、pp.33-65。
佐島隆編『アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―研究資料集・第3集』大阪国際大学（アレヴィー・ベクタシ研究会）、2010年、pp. 1-289.
佐島隆・中山紀子共編、南直人監訳、ヴェルナー・シッファウワー著『「アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―」「トルコ移民と出身国との根とワーク構築に関する文化人類学的研究」研究報告資料集・第2集』大阪国際大学、2010年、pp. 1-304.
佐島隆・中山紀子共編、南直人監訳、ヴェルナー・シッファウワー著『「アレヴィー関連諸集団とアレヴィー・エスニシティの生成と展開―トルコ及びヨーロッパ―」「トルコ移民と出身国との根とワーク構築に関する文化人類学的研究」研究報告資料集・第1集』大阪国際大学、2010年、pp. 1-205.
中山紀子「トルコ人のドイツへの移民」（駒井洋監修）『（叢書グローバル・ディアスポラ

3) 中東・北アフリカのディアスポラ』　明石書店、2010 年、pp.176-197。

南直人「異文化を越えた飲み物」(ひろたまさき・横田冬彦共編)『異文化交流誌の再検討』平凡社、2011 年、pp.213-250。

Naoto Minami, (ed. Patricia Lysaght)、Japanese Cuisine as a Product of Culture and Historical Crossroads, in Patricia Lysaght (ed.), Food and Meals at Cultural Crossroads, Oslo, Novus Press, 2010, pp.174-177.

齋藤久美子「部族から県へーオスマン朝アナトリア辺境地域におけるサンジャク形成の一事例」(鈴木董編)『オスマン帝国史の諸相』6 東京大学東洋文化研究所、2011 年、pp.246-26。

石川真作編著「序論」「EU における共通移民政策と EU 市民権」「解説：オランダおよび北欧の移民政策」「オーストリア・ドイツにおけるマイノリティとシティズンシップ」「「移民国家」ドイツの社会空間――「並行社会」と「統合」の狭間で」(石川真作・渋谷努・山本須美子編)『周縁から照射する EU 社会――移民・マイノリティとシティズンシップの人類学』世界思想社、2012 年、pp. 2-21, 22-41, 44-45, 114-129, 151-173, 253-258。

石川真作「アレヴィー―変貌する「宗教的」マイノリティ―」「トルコにおけるエスニック・グループ―クルド人を中心に―」(大村幸弘・永田雄三・内藤正典編)『トルコを知るための 53 章』明石書店、2012 年、pp. 243-245, pp.246-252。

石川真作「「ナショナリズムとエスニシティ」再考―ヨーロッパの「エスニック化」の文脈から―」(マイグレーション研究会編)『エスニシティを問い直す：理論と変容』明石書店、2012 年、pp. 47-75。

石川真作「ドイツにおけるトルコ系マイノリティ団体の活動―トランスナショナルな公共圏の構築」(竹沢尚一郎編著)『移民のヨーロッパ―国際比較の視点から』明石書店、2011 年、pp.51-75。

石川真作「「平行社会」と「主導社会」―移民国家化するドイツの社会統合」(日本移民学会編)『移民研究と多文化共生』お茶の水書房、2011 年、pp.51-75。

清水直美・上岡弘二(共編著)『テヘラン州の聖所』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2009年、p.i-vii, pp.1-379, pp.i-iii。

〔産業財産権〕○出願状況(計０件)
　　　　　　　○取得状況(計０件)

〔その他〕ホームページ等：ホームページ開設による諸問題があるため、このテーマの開設はしていない。

６．研究組織

(1)研究代表者
　佐島　隆 (SASHIMA　TAKASHI)
　大阪国際大学・国際コミュニケーション学部・教授
　研究者番号：40192596

(2)研究分担者
　中山　紀子 (NAKAYAMA　NORIKO)
　中部大学・国際関係学部・教授
　研究者番号：00288698

(3)研究分担者
　南　直人 (MINAMI　NAOTO)
　京都橘大学・文学部・教授
　研究者番号：20181951

(4)研究分担者
　齋藤　久美子 (SAITOU　KUMIKO)
　東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・ジュニア・フェロー
　研究者番号：90432046

(5)研究分担者
　石川　真作 (ISHIKAWA　SHINSAKU)
　京都文教大学･公私立大学の部局等･研究員
　研究者番号：20298748

(6)連携研究者
　上岡　弘二 (KAMIOKA　KOUJI)
　東京外国語大学・名誉教授・名誉教授
　研究者番号：80014512

(7)研究協力者
　上原　三紀子 (UEHARA　MIKIKO)
　トルコ共和国トルコ日本財団講師

(8)研究協力者
　宮澤　栄司 (MIYAZAWA　EIJI)

(9)研究協力者
　Şükrü Aslan ミマル・シナン芸術大学講師